

目 次

〔第18回電気泳動学会児玉賞受賞講演〕

- |                            |           |                           |
|----------------------------|-----------|---------------------------|
| 1. 2次元アフィニティ電気泳動法による酵素の研究  | 東京学芸大・生物学 | 井上 勤.....(1)              |
| 2. 自動電気泳動装置 (AES) の開発とその意義 | オリンパス光学工業 | 藤森 唳・加藤 豊.. (11)<br>栢口 正雄 |

〔電気泳動学会30周年記念総会抄録〕

- |   |  |  |
|---|--|--|
| 1. ショウジョウバエの卵の lectin binding proteins の分析              | 阪 大・医・遺 伝 学  | 佐子山豊彦..... (19)  |
| 2. 電気泳動法によるジャコウの男性ホルモン様作用の解析                            | 富山医薬大・和漢薬研<br>病 態 生 化 学  | 荻田 善一・金 溶奎.. (20)<br>岩橋 寛治・安光英太郎                         |
| 3. 実験動物としてのマウス涙液蛋白質の遺伝的変異について                           | 東北歯大・口腔診断学<br>自 治 医 大・法 医 学  | 松島 芳文・今井 忠治.. (21)<br>池本 卯典                              |
| 4. セファデックスアガロースゲル免疫電気泳動法に依るハプトグロビンの遺伝型判定                | ヘキストジャパン総合開発<br>研・免 疫 生 化 学  | 長谷部保彦・寺野 由剛.. (22)                                       |
| 5. Laser nephelometry 法による凝固因子・protease-inhibitor の測定   | 久留米大・医・病態検査学   | 末永隆一郎・石本祥二郎.. (23)<br>平原 謙一・上田 正人<br>山崎晴一朝               |
| 6. ラテックス近赤外比濁法によるリンパ球培養上清の免疫グロブリンの測定                    | 金 沢 大・が ん 研<br>金 沢 大・医・小 児 科<br>帝 国 臓 器 製 薬 研<br>三 菱 化 成 総 合 研             | 右田 俊介..... (24)<br>森谷 直樹<br>沢井 政信<br>森田 司郎・佐藤 茂<br>西田 秀治 |
| 7. SDS-ポリアクリルアミドゲル電気泳動による各種唾液蛋白分画                       | 東京医歯大・歯・第3補綴学<br>昭和大・歯・第2補綴学<br>東京医歯大・医・附属病院<br>中 検・生 化 学<br>東京医歯大・医・生 化 学 | 吉田 二良..... (25)<br>芝 燁彦<br>長 裕子・山村 雅枝<br>佐野紀代子<br>中尾 真   |
| 8. SDS-ポリアクリルアミドゲル電気泳動による低分子量ポリペプチドの分析法                 | 新潟大・理・生体物理化学   | 堀米 恒好・吉田 薫.. (26)<br>金井 祐子・菅野 浩                          |
| 9. 薄層ゲル透過後の免疫固定法を応用した血漿蛋白成分の分子サイズの多様性の解析                | 都 済 生 会 中 央 病 院 科<br>臨 床 検 査 科<br>浜松医大・附属病院・検査部                            | 伊東 尚子..... (27)<br>菅野 剛史                                 |
| 10. 微量血による各種動物ヘモグロビンの電気泳動                               | 実 中 研・血 液 化 学  | 谷本 義文..... (28)  |
| 11. ポリアクリルアミドグラジエントゲル電気泳動を用いた新生児臍帯血中のヘモグロビン結合性蛋白の検出法の試み | 市立柏原病院・内科<br>国立大阪病院・内科<br>阪 大・医・第 1 内 科<br>阪 大・医・遺 伝 学                     | 竹谷 直喜・阪口 勇.. (29)<br>益沢 武信<br>鎌田 武信・阿部 裕<br>佐子山豊彦        |
| 12. Hb Alc の測定に関する研究。第2報—IEF 法の日常診療への応用—                | 北里大・医・臨床病理学  | 薄井 晶子・小出 朝男.. (30)<br>上原 一之・大谷 英樹<br>斉藤 正行               |
| 13. サイクロデキストリン包接電気泳動によるリポ蛋白の新しい分離法について                  | 岡山大・臨検技師学校<br>岡 山 大・医・内 科<br>岡山大・医・附属病院・中検                                 | 一村 光子・唐下 博子.. (31)<br>馬場 三和<br>馬場 巽                      |
| 14. アルコールの脂質代謝に及ぼす影響—高比重リポ蛋白コレステロールについて—                | 鳥 取 大・医・第 2 内 科  | 山田 貞子・野坂 康雄.. (32)<br>山西 康仁・平山 千里                        |

15. ヒト血清の電気泳動的蛋白分画について、第4報—リポ蛋白中の脂質—  
緒方医学化学研 広橋 憲・黒野 憲二.. (33)  
都赤十字血液センター 和夫・岡部 敏明  
都金養育院病院研 野間 俊介
16. 胆汁うっ滞時の異常リポ蛋白(slow-migrating HDL)の分離, 特性および臨床的意義  
岡山大・医・第1内科 渡辺 誠・武田 和久.. (34)  
長島 秀夫
17. ポリアクリルアミドゲル電気泳動法よるヒト血清 HDL の細分画法について—健常者での解析を中心に—  
長崎大・医・附属病院部 菅原 和行・臼井 敏明.. (35)  
検査 査
18.  $\alpha$ -tocopheryl nicotinate と脂質代謝, 特に $\beta$ および $\alpha$ -コレステロールに及ぼす影響  
加古川市民病院・内科 天野 昌彦・岩元 栄一.. (36)  
神戸大・医・第2内科 生野 哲雄・福永 秀行  
馬場 茂明
19. カタツムリアミラーゼのセルロースアセテート膜等電点電気泳動法  
東京学芸大・生物学 井上 勤・神戸 良子.. (37)
20. 電気泳動によるアミラーゼアイソザイムの分離について, 第1報—セルロゲル膜とトリス・ホウ酸緩衝系の分離能—  
慶大・医・附属病院 嵯峨実枝子・加野象次郎.. (38)  
中検・臨床化学 松本安治郎・早乙女正勝  
園田 啓・清水 光子
21. アミラーゼアイソザイムの基礎的検討  
名市大・医・第2内科 奥田 宣男・田中 裕二.. (39)  
中村憲一郎・石原 順  
須賀 泰博・山本 正彦  
中京病院・検査部 青木 紀生・温田 信夫  
中京病院・消化器内科 加納 英行・温田 雅史  
榊原 健治・溝上
22. 尿中アミラーゼアイソザイムでプレアルブミン位に異常バンドのみられた1症例  
虎の門病院・臨床化学 品川多美子・辻村 節子.. (40)  
虎の門病院・消化器科 中山 年正・北村 元仕  
金坂 明美・山田 直行  
福地 創太郎
23. 薄層 polyacrylamide gel 等電点電気泳動法を用いた血清  $\alpha$ -amylase isoenzyme の測定  
東邦大・理・生理化学 今井 利夫・吉田 光孝.. (41)  
野田 産 研 斎藤 成正 震  
千葉大・医・附属病院部 降矢
24. セルロースアセテート2次元電気泳動, 第2報—低濃度蛋白質試料についての検討—  
都老人研・生化学 戸田 年総・藤田 敬子.. (42)  
大橋 望彦
25. ヒト血漿蛋白質2次元電気泳動パターンの正規化  
都立大・理・化学 真鍋 敬・小島 清嗣.. (43)  
奥山 典生
26. Two dimensional isoelectric focusing electrophoresis による各種蛋白質の分析  
札幌医大・癌研・内科 高後 裕・安達 主悦.. (44)  
茂木 良弘・漆崎 洋一  
後藤 義朗・小野寺 義光  
新津洋司郎 漆崎 一朗
27. 薄層アガロースゲル等電点電気泳動法について  
麻布大・環保・生物有機 小林 貞男・鈴木 潤.. (45)  
浜田 暁子
28. 等電点電気泳動法による妊娠蛋白の変化  
日本医大・産婦人科 青木 隆・大川 了汎.. (46)  
大川 公康
29. Agarose を用いた等電点電気泳動法  
S R L 阪田 邦子・毛利 邦子.. (47)  
河原 隆之介  
自治医大・臨床病理学 桜林郁之介・河合 忠  
日 本 商 事 武義
30. 薄層等電点泳動法 (IEF) による微量単クローン性免疫 glob (MCIG) の検出—セルロースアセテート膜電気泳動法 (CAE) および免疫電気泳動法 (IE) による検出との比較—  
北里大・医・分子生物 原田 康子・佐藤 佳子.. (48)  
川上 正也
31. LDH インヒビターおよび補酵素 NAD, NADP アナログの等速泳動像  
埼玉医大・生化学 坂岸 良克・池田 守.. (49)
32. LDH サブバンドの後成的修飾機構の電気泳動法的解析  
富山医薬大・和漢薬研 荻田 善一・宇田川千恵子 (50)  
病態生化学
33. LDH アイソザイム測定 の 正確度に関する検討  
虎の門病院・臨床化学 村川和枝・五十嵐富三男.. (51)  
中山 年正・北村 元仕

34. 薄層アガロースゲルフィルムを支持体とした LDH アイソザイムの検出条件について  
日本商事 浦田 武義・平川 博道.. (52)  
東邦大・理・生理化学 吉田 光孝
35. L-lactate dehydrogenase isoenzyme (E. C. 1.1.1.27) の 5-AMP-polyacrylamide に対する結合特異性の解析  
山口大・医・第1生化学 中村 和行・桑原 亮.. (53)  
緒方 幡典・竹尾 和典
36. リンパ増殖性疾患および各種 mitogen 処理によるリンパ球 LDH isozyme の変動について  
札幌医大・癌研・内科 川島 真人・中沢 修.. (54)  
福田 守道・漆崎 一期  
札幌通信病院 中野 良昭  
国立札幌病院 三国 主税
37. Triton X-100 polyacrylamide gel 電気泳動法による赤血球中 LDH isozyme extra-band の分析  
東京警察病院・中央検査部 平野 哲夫・松崎 広子.. (55)  
第1部生化学
38. 可視部ザイモグラム用いた ALP isoenzyme の阻害剤による簡易鑑別法の検討  
江東徽研 佐藤 松男・田中 聖英.. (56)  
東邦大・理・生理化学 小関 弥平  
吉田 光孝
39. 胆汁のアルカリフォスファターゼアイソザイム  
東京慈恵医大 今泉 忠芳・荻原 正雄.. (57)  
第3分院・内科 堀口 正晴
40. 胆盤性アルカリフォスファターゼの immunosorbent affinity chromatography  
国立大阪病院・内科 益沢 学..... (58)  
柏原市民病院・内科 竹谷 直喜  
警察病院・内科 久保 光彦  
阪大・医・第1内科学 鎌田 武信  
阪大・医・遺伝学 佐子 山登彦
41. ラット血清および臓器アルカリ性フォスファターゼの酵素誘導による変化  
埼玉医大・生化学 菰田 二一・坂岸 良克.. (59)
42. 耳下腺唾液中の ACP の等電点電気泳動像について  
自治医大・法医学 日野原 博・池本 卯典.. (60)  
東京歯大・法歯学 水口 清
43.  $\gamma$ -GTP アイソザイムの新しい検出法, 続報—各種肝疾患々々血清の  $\gamma$ -GTP アイソザイム—  
東京医歯大・医・附属病院 長 裕子・小林佐智子.. (61)  
中検・生化学 神作 純子・佐野紀代子
44. 肝癌特異  $\gamma$ -GTP アイソザイムについての研究  
山口大・医・第1内科 佐々木まゆみ・沖田 極.. (62)  
児玉 隆治・竹本 忠良
45. 原発性肝癌に関連して出現する  $\gamma$ -GTP アイソザイムとトリボ蛋白との関連性について  
岡山大・医・第1内科 泉 正樹・武田 和久.. (63)  
渡辺 誠・長島 秀夫
46. 抗 CK-M 血清を用いた血清クレアチンキナーゼアイソザイムの測定法  
東邦大・理・生理化学 今井 利夫・入江 勉.. (64)  
千葉大・医・附属病院部 吉田 光孝  
検査 降矢 震
47. 新生児における血漿 creatine kinase アイソザイムの臨床的意義  
昭和大・医・臨床病理学 尤 芳上・石井 暢.. (65)  
昭和大・医・小児科学 大川 秀明・奥山 和男  
昭和大・医・附属病院・中検 石沢 修二・高山由美子
48. 複雑な enzymogram を呈する creatine kinase の検索  
倉敷中央病院・臨床検査部 金光 房江・川西 功躬.. (66)  
香川県立中央病院 臨床病理学 水島 淳
49. IgG 骨髄腫蛋白の等電点分画ならびに生化学的検討  
北里大・医・臨床病理学 大谷 英樹・坂口 和子.. (67)  
上原 一之・小出 朝男  
斉藤 正行
50. アミロイドーシスを併った IgA  $\lambda$  型骨髄腫に認められた cryo-Bence Jones 蛋白の解析  
神戸大・医・第2内科 小川 正・石田 正矩.. (68)  
岡田 究・水野 信彦  
馬場 茂明  
神戸大・医・第1内科 長井 勇
51. IgA を含む膜結合酵素複合体の性状  
浜松医大・附属病院・検査部 須藤加代子・菅野 剛史.. (69)
52. 肝硬変症にともなった一過性 M 蛋白血症—微分電気泳動図による分析—  
川崎医科大・検査診断学 岡村 一博..... (70)
53. 高分子 Bence Jones 蛋白の重合様式に関する研究  
兵庫県立西宮病院・中検 勝田 祐年..... (71)
54. 糖鎖をもつ  $\kappa$  型 Bence Jones 蛋白についての検討  
慶大・医・附属病院 大竹 皓子・松本宏治郎.. (72)  
中検・臨床化学 加野象次郎

55. 慢性歯根尖病巣における基礎的研究, 第1報  
一病変組織中に含まれる免疫グロブリンの定量的検索一  
鶴見大・歯・第2口腔外科 松本 行洋・島袋 泰弘.. (73)  
布施 健・浅田 洸一  
石橋 克禮  
川村 尚也  
緒方 医学化学研 広橋 憲
56. 抗核抗体に関する臨床的研究  
久留米大・医・病態検査学 萬年 孝哉・伊藤 洋一.. (74)  
中山 次郎・山崎晴一朗
57. 各種消化器疾患における抗アルブミン抗体  
鳥取大・医・第2内科 田村 矩章・周防 武昭.. (75)  
平山 千里
58. 赤血球溶血液非ヘモグロビン蛋白 (NHP) の血清学的研究, 第3報  
一溶血液分画の酵素活性一  
岐阜大・医・法医学 杉山 容子・勾坂 馨.. (76)
59. 血液凝固第XIII因子製剤の抗原性に関する研究  
ミドリ十字・中央研 福島 恒和・松永 富行.. (77)  
船越 哲・須山 忠和
60. Separax 電気泳動法による“カギ型”アルブミン分画の成因に関する研究  
花園病院・研究検査科 藤田 清貴..... (78)
61. ウシ血清アルブミンのアルカリ変性  
名市大・教養・化学 堀 襄二..... (79)
62. ヒト血清中の iso-transferrin の精製とその性質について  
昭和大・医・生化学 鄭 一世・牧野 義彰.. (80)  
金丸 育恵・紺野 邦夫
63. Transferrin に関する研究, 第1報  
一Transferrin の heterogeneity について一  
札幌医大・癌研・内科 高後 裕・漆崎 洋一.. (81)  
門野 豊・石井 徹  
新津洋司郎・漆崎 一朗
64. セルロプラスミン変異型に関する検討  
放射線影響研 長畑 裕子・藤田 幹雄.. (82)  
佐藤千代子
65. Cobalophilin の精製に関する研究, 第2報  
札幌医大・癌研・内科 平田健一郎・丸山 裕.. (83)  
斉藤甲斐之助・中沢 修  
福田 守道
66. ヒト正常肝と肝硬変におけるI型およびIII型コラーゲンの比較検討  
鳥取大・医・第2内科 周防 武昭・平山 千里.. (84)
67. Ligandin に関する研究, 第4報  
一Subunit 構造と機能の関連について一  
札幌医大・癌研・内科 西里 卓次・竹内 秀一.. (85)  
井原 康二・池田 晃  
幸田 久平・村上 俊吾  
石谷 邦彦・漆崎 一朗  
Naohito Ohmi
68. 病態時にみられる血中  $\alpha_1$ -アンチトリプシンの修飾について  
東大・医・第1内科 三宅 和彦・与芝 真.. (86)  
鈴木 宏・岡 博  
織田 敏次
69. ヒト  $\alpha_1$ -microglobulin に関する研究, 第7報  
一調製用 SDS ディスク電気泳動法による  $\alpha_1$ -microglobulin の分離精製一  
自治医大・臨床病理学 榎本 博光・高木 皇輝.. (87)  
伊藤 喜久・金 衡仁  
櫻林郁之介・河合 忠
70. 婦人科悪性腫瘍患者の補体系 alternative pathway とその活性抑制因子  
日本医大・産婦人科 大川 公康・大川 了汎.. (88)
71. 各種白血病細胞における膜蛋白の検討  
札幌医大・癌研・内科 池田 晃・田村 升.. (89)  
本多 利雄・竹内 秀一  
石谷 邦彦・漆崎 一朗  
三国 主税
72. 癌由来 alpha 組織抗原の免疫化学的研究  
札幌医大・第1内科 小林 壮光・川原田 信.. (90)  
赤保内良和・谷内 昭  
和田 武雄
73. DEAE-セルロースクロマトグラフィーにおけるラット  $\alpha$ -フェトプロテインの heterogeneity  
東日本学園大・薬・生化学 山本 雅一・渡部 博之.. (91)
74. 原発性肝細胞癌の診断と治療における AFP 測定の意義について  
日大・医・第3内科 大藤 紘一・富田 雅之.. (92)  
奥山 泰史・鈴木 裕二  
高橋 良・佐藤 一夫  
亀田 千里・石塚 英夫  
藤田 実彦・金田 春雄  
本田 利男

75. Competitive binding enzyme immunoassay 慶大・医・精神神経科 藤井 康男・立山 万里.. (93)  
 による抗てんかん薬血中濃度測定 伊藤 斉  
 東海大・医・内科 市川 一男
76. タンニン酸羊赤血球電気泳動に関する研究, 東京慈恵医大・第3内科 橋本 信也 能勢 俊一.. (94)  
 第5報 揚塩 正樹・堀田 正一  
 阿部 正和
77. 自動細胞電気泳動法によるリンパ球の sub- 都臨床研・化学療法 清水 本武・岩口 孝雄.. (95)  
 population の解析
78. Across 電気泳動法による泳動条件決定法 富山医薬大・和漢薬研 片山 和信・荻田 善一.. (96)  
 病態生化学
79. 細管式等速電気泳動法による人工腎臓透析 島津・分析センター 八木 孝夫・児島佳世子.. (97)  
 患者血清の分析
80. Affinity electrophoresis による concanavalin A の糖結合中心の解析 山口大・医・第1生化学 竹尾 和典・藤本 正憲.. (98)  
 鈴木 亮輔・中村 和行  
 桑原 亮・緒方 幡典
81. [<sup>3</sup>H]-DFP によってアフィニティラベルされる細胞核内セリンプロテアーゼの電気泳動的解析 阪大・蛋白研・酵素 萩原 秀昭・長尾 嘉信.. (99)  
 宮崎 香・松尾 雄志  
 堀尾 武一
82. ラット各臓器の fructose 1,6-bisphosphatase isozyme の subband の相違 岡山大・医・第1内科 武田 和久・島村淳之輔..(100)  
 旭川医大・第3内科 坂田 達朗・長島 秀夫  
 関谷 千尋
83. GOT anomaly 例におけるアポ化と補酵素親和性 虎の門病院・生化学科 桑 克彦・中山 年正..(101)  
 北村 元仕
84. *Euhadra peliomphala* (ミスジマイマイ) の  $\beta$ -galactosidase の2型の比較 東京学芸大・生物学 井上 勤・中田 郁枝..(102)
85. ラット肝 L-asparaginase について 昭和大・医・中央化研 飯島 武・門福 強樹..(103)  
 鈴木 育子・佐藤 永雄
86. 体液 FDP 分画像の検討とその意義 富山市民病院・研究検査科 高柳 尹立.....(104)
- 電気泳動学会30周年記念総会印象記 麻布大・獣医・家畜衛生 田中 享一.....(105)
- International Conference of Electrophoresis 79 (ミュンヘン) に出席して 東京慈恵医大・第3内科 橋本 信也.....(109)

## 目 次

### 〔会長講演〕

電気泳動学会30周年記念総会に当って 電気泳動学会会長 平井 秀松.....(115)

### 〔特別講演〕

最近の血漿蛋白質研究の進歩 ベーリングベルケ研究所 ハンス・ゲルハルト  
シュビエック..(121)

### 〔特別寄稿〕

SDS ゲル電気泳動および抗体を用いた動物細胞骨格の研究 マックスプランク研究所 マリー・オスポーン.....(149)

### 〔原 著〕

1. ニワトリの多量体免疫グロブリン  
(2) J-chain の精製とその免疫学的, 物理化学的性質について 北大・医・第1生化学 小林 邦彦・平井 秀松..(171)
2. リポ蛋白質代謝と病態  
—特に VLDL と HDL との相互関係について— 久留米大・医・病態検査科 上田 正人・山崎晴一朗..(177)  
久留米大・医・第3内科 戸次 久敏・秋吉 俊則  
戸嶋 裕徳
3. ウシ血清アルブミンのアルカリ変性 名市立大・教養・化学 堀 襄二.....(183)
4. SDS-ポリアクリルアミドゲル電気泳動による低分子量ポリペプチドの分析法 新 潟 大・理・化 学 堀米 恒好・吉田 薫..(187)  
金井 祐子・長谷川和子  
菅野 浩

### 〔報 告〕

等電点電気泳動における両性担体の分布の数学的解析 東京医歯大・教養・物理 島尾 和男.....(191)

電気泳動学会30周年記念総会経過..... (195)

国際電気泳動学会について..... (197)

## 電気泳動学会30周年記念総会経過

### 1. 記念総会準備委員会の結成と記念行事計画

昭和54年は電気泳動学会創立30周年にあたるので、電気泳動学会会長である北海道大学医学部第1生化学教授平井秀松先生を総会会長として、30周年記念総会をしようと決定されたのは昭和51年頃の評議員会であった。昭和53年6月2, 3日の第28回春季大会を契機として、北大医学部第1生化学教室内に準備委員会が設置され具体的な検討を開始した。20周年には Dr. Tiselius, Dr. Peeters を招待し盛大な記念行事が行われたが、30周年もこれにない電気泳動に著しく貢献した学者を外国から招待しようということの人選がなされ、一応 SDS 電気泳動の創始者 Dr. Weber または Dr. Osborn, disc 電気泳動の創始者 Dr. Davis または Dr. Ornstein が候補にあげられた。一方、血漿蛋白質の化学に詳しいドイツ・ペーリングベルケ研究所長の Dr. Schwick の参加もお願いすることとした。一方、同時に記念シンポジウムの開催も計画され、北大の第1生化学教室の西講師にその計画を依頼した。シンポジウムの主題は AFP に関するものとし、招待者としては米国から Dr. Ruoslahti を、ソ連から Dr. Tatarinov に招待状が発送された。これら外国人招待者との交渉は53年6月にただちに行われたが、Dr. Osborn, Dr. Schwick, Dr. Ruoslahti および Dr. Tatarinov より8月末までに参加の同意が得られた。

また上記記念講演の他30周年の記念として参加者への記念品贈呈、記念文集の出版、名誉会員の推薦、功労者の表彰、エキスカージョンなどが計画された。

### 2. 準備委員会での検討事項

昭和53年9月8日、第1回の準備委員会と電気泳動学会幹事会との話し合いが東京山の上ホテルで開かれた。この会合では記念総会における行事予定が報告され、それを遂行するための必要経費の検討がなされ、募金については各評議員を通して各社に寄付をお願いすることとなった。また、特に協議事項としてはプログラム編成上、演題数多数の場合はポスターセッションの開催の必要性についてであった。

昭和53年10月27日、神戸での第29回総会評議員会で30周年総会についての報告がなされ、期日は54年10月6～8日、会場は札幌グランドホテルで行うと発表された。

しかし、53年12月に入り、30周年記念総会の期日が日本生化学会の期日と重複することが判明し、急拠会期変更を余儀なくされ、10月18～20日に変更することが準備委員会で決定された。

昭和54年2月16日、東京での幹事会では電泳協会幹事にも出席を願い、募金の方法および展示会について協議が行われた。昭和54年3月7日に電泳協会総会が東京で催されたが、この時点で電泳協会の解散が決定され、以後賛助会員との交渉は準備委員会と直接交渉で行うこととなった。

昭和54年6月2日、第29回春季大会での評議員会で、功労者および名誉会員候補者についての平井会長案が可決された。名誉会員としてはセルロースアセテート膜電気泳動の Dr. Kohn, 故・宮本 璋, 故・中村正二郎, 故・小川 敏, 石井 進, 沖中重雄, 小穴 純, 島藺順雄の8名の諸先生が推薦され、また功労者としては故・加藤栄美(明日香工業), 萱垣 啓(萱垣医理科), 兩宮与市(コスモ), 服部敬七郎(常光), 篠田勝幸(富士理研), および牧野勇夫, 篠田慎吾, 彦坂芳郎, 白川義雄(日立グループ)の諸氏の推薦が決定された。準備委員会はさっそくこれらの方々にその旨を書状により連絡し、その受諾をお願いした。一方、演題募集については54年7月上旬に発送、メ切は8月31日とした。プログラム編成会議は9月7日とし、9月下旬にはプログラム発送の予定が決定された。

また、児玉賞については井上 勤氏(東京学芸大)と加藤 豊, 藤森 暁, 栢口正雄の3氏(オリンパス工業)に第18回児玉賞授与が決定され、記念総会で表彰することとした。

昭和54年7月20日、私学会館での幹事会では、準備委員会に寄附状況および学会準備状況について報告され、また、ソ連の Dr. Tatarinov の来日が不能になった旨も報告された。一方、30周年記念総会の時期にほぼ一致して、米国 La Jolla 癌研究所長 Dr. Fishman 夫妻が来日されることが判明、さっそく Dr. Tatarinov のかわりとして Dr. Fishman のシンポジウム参加を依頼し快諾された。

昭和54年9月7日、私学会館でプログラム編成委員会が開かれた。応募演題数が86題の多数に達したため、ポスターセッションの開催が決定され、さっそく演題の分

別とポスターセッションの案内を急送することとなった。学会としてははじめての試みであり、かなり不安な材料ではあった。一方、座長の依頼を開始、プログラム中に座長名を入れることも決定した。9月上旬より招待外国人の滞日中の接待についてスケジュール作製を開始し、遠藤康夫博士（東大）、堀尾武一教授（阪大）とも相談し、東京、大阪でのセミナーの計画を企画した。

10月11日、準備委員会は最終打合せ会を行い各セッションにおける責任者に細かな指示がなされた。

10月17日午後より、札幌グランドホテルでの会場設営が開始された。北大第1生化学の全教室員、アルバイト学生全員が集合し、講演会場配置、スライドの試写、マイクの調整、ポスターセッション会場、展示会場の設置などが行われ、午後9時には最終点検と、リハーサルが行われた。

### 3. 記念総会の開催

本会場の札幌グランドホテルでは Room 464 の貴賓室が本部にあてられ、10月17日夜、前夜祭として評議員、名誉会員、来賓、外国人招待者を招待し、カクテルパーティーが催された。

10月18日、記念総会はグランドホテル金枝の間で開始された。午後1時より総会では電気泳動学会会則の一部変更が承認された。また、報告として児玉賞受賞者の選衡経過、庶務、会計報告および次年度の行事予定などについての報告がなされた。

続いて、午後1時より児玉賞授賞式と受賞講演が井上博士（東京学芸大）、栢口博士（オリンパス工業）によりなされた。次いで午後2時20分より30周年記念式典が開始された。司会は赤井博士（新潟がんセンター）により行われ、平井総会会長の開会挨拶、ならびに記念講演がなされ、ひき続き名誉会員、功労者表彰式が行われた。ついで平井総会会長、座長のもとで Dr. Schwick による特別講演が行われた。講演終了後、平井会長より、Dr. Schwick に記念品の贈呈があり、式典は無事終了した。会員の記念撮影後、同ホテル内銀扇の間で会員懇親会が行われた。出席者は200名をこえ、盛大なパーティーであった。席上 Dr. Ruoslahti, Dr. Schwick, 山崎慶

二郎博士の挨拶や、招待外国人の紹介などもあり、また佐瀬民雄博士（神奈川医療少年院長）による奇術などの飛び入りもあり、にぎやかな懇親会であった。

10月19日は台風20号が北海道に接近し、会場外では暴風雨となったが、講演は滞りなく進み、午後3時30分より記念シンポジウムが開催された。遠藤博士（東大・医・第1内科）、西博士（北大・医・第1生化学）の司会のもと Dr. Fishman, Dr. Ruoslahti, 西博士、遠藤博士、金田博士（日大・医・第3内科）、小路博士（長崎大・医・第1内科）の順に講演があり、その後活発な討議が行われた。一方、ポスターセッションは講演会場に隣接した会場で行われたが、はじめての試みにもかかわらず多数の会員が参集し、活発な discussion がなされた。この企画は好評であり、次回からの学会でもポスターセッションの採用の道を拓いた。

10月19日午後7時30分より、フォーマルな祝賀記念晩餐会が会場3階の玉葉の間で行われ、来賓、評議員をはじめ招待者全員の参加で盛大かつ厳粛に行われた。島尾博士（東京医歯大・教養部）の司会のもとで、平井総会会長の挨拶、児玉令夫人を始め来賓各位、招待者のスピーチがあった。平井会長は特に故・児玉前学会長形見の羽織、袴の正装で出席された。

10月20日、前日の強烈な台風にも拘らず、台風一過この日はうその様に晴れ上り、支笏湖へ向けてのエクスカッションに出発した。当初、支笏湖上遊覧が計画されたが、なお風が強かったため、かわりにこの時間を札幌市内観光にあてた。オリンピック会場などを一周して、紅葉の支笏湖へ向った。すばらしい青空と紅葉のもと支笏湖畔につき石狩鍋を賞味した。車中、平井会長の司会で歌あり、挨拶あり、和気あいあいの楽しいエクスカッションであった。午後4時、千歳空港につき、児玉令夫人をはじめ、島菌名誉会員、評議員のほか、当日帰京なさる先生方を見送り、午後5時30分、無事グランドホテルへ着き、すべての日程が終了した。

以上、電気泳動学会30周年記念総会の経過を記録する。

(電気泳動学会30周年記念総会準備委員、小林邦彦 記)



## 国際電気泳動学会開催のお知らせ

1981年度国際電気泳動学会 (Electrophoresis '81) 開催について、第1回目の案内状が届きましたので、御連絡致します。日本からも多数の方々の参加を希望することです。

### 記

- 会 長 : Professor Robert C. Allen  
Medical University of South Carolina Laboratory Animal Medicine,  
171 Ashley Avenue, Charleston, South Carolina, 29403, U.S.A.
- 期 日 : 1981年4月7日～10日
- 場 所 : The New Sheraton Convention Center, Hagood Street, Chaleston,  
South Carolina
- 演題・抄録申し込み: ポスター発表か口演希望かの区別を記載して演題名および英文 300～400 字の抄録を1981年2月10日までに、会長宛送付のこと。
- 登 録 : 登録用紙に記入の上、1981年2月1日まで70ドル(会員)を払い込むこと。2月2日以降は90ドルとなる。非会員は2月1日まで95ドル、それ以降は110ドルである。

(登録用紙御希望の方は電気泳動学会事務局か東京慈恵医大第3内科橋本まで御連絡下さい。)

## 国際電気泳動学会入会のお知らせ

生物物理化学 (24: 109, 1980) 誌上でも御報告致しましたように、この度、国際電気泳動学会が正式に組織され、1979年12月17日発足致しました。今回この組織化に尽力されました Bertold Radola 教授, Robert C. Allen 教授より、伝統ある日本の電気泳動学会会員の多数の入会を希望する旨通知がありましたので、お知らせ致します。会則、入会用紙を御希望の方は、電気泳動学会事務局まで御申し出下さい。また詳しいこととお知りになりたい方は、東京慈恵医大第3内科、橋本まで御連絡下さい。

更に国際電気泳動学会機関誌 "Electrophoresis" が西ドイツ, Verlag Chemie 社から刊行されました。購読御希望の方は、下記へ直接お申し込み下さい。

Verlag Chemie GmbH P. O. Box 1260/1280 D-6940 Weinheim Federal Republic of Germany.

(日本代理店: 〒101 千代田区三崎町 3-6-15 東和ビル オークラサイエンス)

(文責: 東京慈恵医大第3内科 橋本信也)